第２回　公共交通検討委員会
Ｈ30.7.31　資料３

ワークショップ等実施計画書（案）

平成３０年７月

目　　次

1.　ワークショップ等の概要 …… 1
1.1 ワークショップ・アンケート調査の目的 …… 1
1.2 ワークショップの名称 …… 1
1.3 ワークショップのコンセプト …… 1
2.　ワークショップ等実施スケジュール（案） …… 2
2.1 全体スケジュール …… 2
2.2 開催スケジュール・会場 …… 2
3.　ワークショップ等実施対象区域 …… 3
3.1 対象区域の設定 …… 3
3.2 参加対象者 …… 3
4.　参加者募集計画 …… 4
4.1 募集方法 …… 4
4.2 応募受付方法 …… 4
4.3 参加者募集の PR 資料作成 …… 4
5.　ワークショップ実施計画 …… 5
5.1 ワークショップの方法（基本的な考え方） …… 5
5.2 区域ごとのテーマ設定（仮） …… 5
5.3 ワークショップの詳細計画（案） …… 5
6.　アンケート調査実施計画 …… 8
6.1 実施時期 …… 8
6.2 実施方法 …… 8
6.3 調査内容（案） …… 8
7.　市民とのコミュニケーション計画 …… 9
7.1 目的 …… 9
7.2 情報提供の基本的な考え方 …… 9
7.3 情報収集の基本的な考え方 …… 9
7.4 具体的な方法（案） …… 9

1. ワークショップ等の概要

1.1 ワークショップ・アンケート調査の目的

公共交通優先検討区域内の交通に関わる現状、課題、ニーズ等について、区域内の住民の方から詳細な意見や深掘りすべき意見（区域内の組織や取組状況等を含む）をワークショップ形式で把握するとともに、区域内の考え方の傾向等をアンケート調査で把握することを目的とする。

また、今後の公共交通のあり方について、住民と行政とにおける共通認識の形成や連携体制の構築を目指す。

1.2 ワークショップの名称

参加者募集や情報提供の際に、「参加を呼び掛ける」姿勢が伝わり、市民の方に「何をやるのか」が分かるような名称とする。

【案】この区域の「生活の足」をどうしたらよいか？みんなで考えるワークショップ

※ワークショップ名称の後には「○○○○○（区域名等）」のように区域名等を表記する。

※ワークショップの説明は、参加者募集のお知らせ（広報紙等）に記載する。

1.3 ワークショップのコンセプト

○基本コンセプト

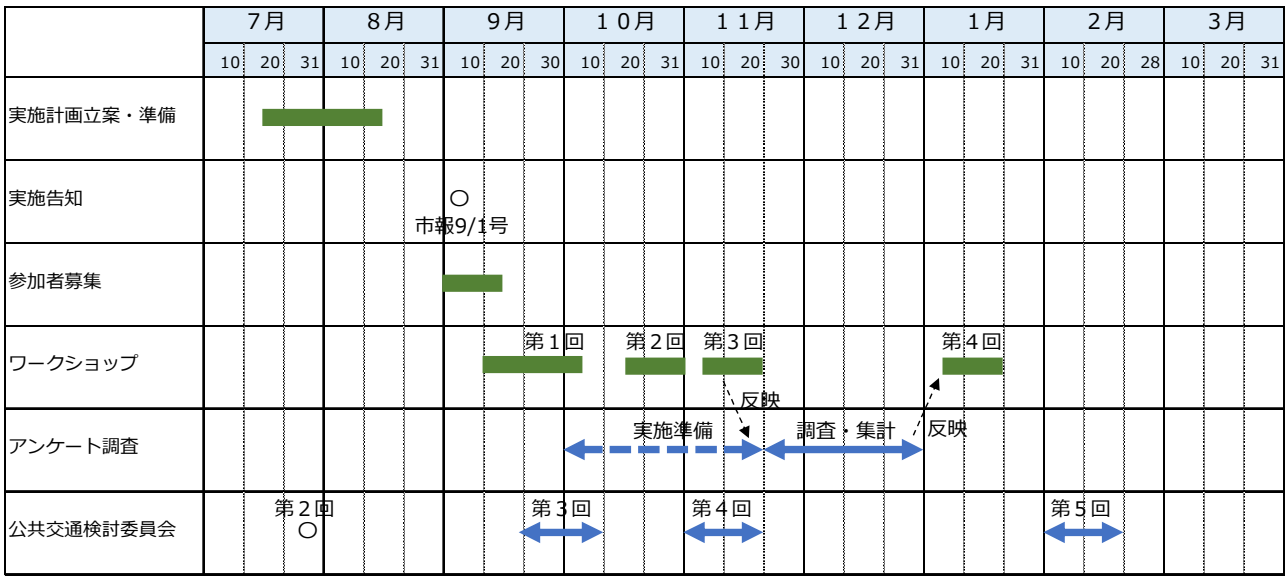
公共交通優先検討区域にお住まいの方に、その区域の交通の現状や課題を共有してもらうとともに、今後の交通のあり方やどのような交通手段があると良いかを自分のこととして考え、区域としての方向性を共有して欲しい。

○ワークショップの基本姿勢

・参加者の意欲を高める工夫 ⇒協議した結果が、どのように取組に生かされるのかを説明する。 ・自主性を高める工夫 ⇒参加者の考え、意見等を尊重し、ファシリテータ等による過度の誘導は行わない。 ・楽しさの演出 ⇒誰もが意見を言いやすいような雰囲気づくり・運営を行う。 （専門用語や堅苦しい発言はしないなど、発言しやすい準備・段取りの工夫） ・円滑にワークショップを進めるための工夫 ※　ファシリテータ 集会・会議などで、テーマ・議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏らないよう、順調に進行するように口添えする役のこと

2. ワークショップ等実施スケジュール（案）

2.1 全体スケジュール



○ワークショップ開催スケジュールにおける諸条件

・広報紙による開催告知、参加者募集を行う予定であるが、本委員会での検討や町内会・自治会との調整が必要であることから、記事掲載は９月１日号の予定である。

→ワークショップ参加者の募集は９月１日以降も実施しておく必要がある。

→第１回の開催は９月中～下旬を予定する。

※　ただし、回覧等の活用により、対象区域内で情報伝達が図れる場合を除く。

・第３回ワークショップと第４回ワークショップの間にアンケート調査を実施する予定である。

→ワークショップの内容を踏まえ、アンケート調査の内容を精査する。

2.2 開催スケジュール・会場

・日程、会場等は、町内会・自治会と調整し、詳細を決定する。

※　開催日は、対象区域内の住民の皆さんの都合がつきやすいよう、土日も候補日とする。

※　開催場所は、市役所や自治会館などとする。

3. ワークショップ等実施対象区域

3.1 対象区域の設定

対象区域は、「あきる野市公共交通のあり方検討報告書」（平成 29 年 12 月）において、公共交通優先検討区域に位置付けられた、下図に示す区域。

※　公共交通優先検討区域の詳細は、第２回検討委員会にて取りまとめる予定である。

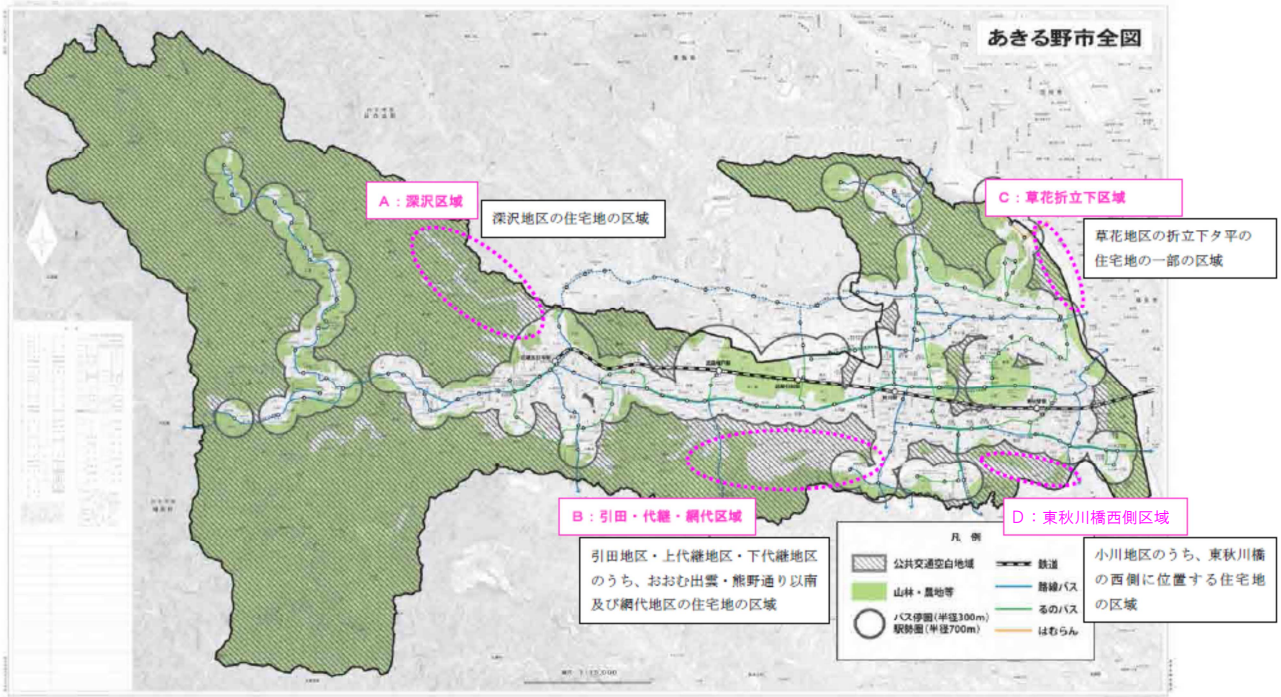


図　対象区域の位置

3.2 参加対象者

・対象区域にお住まいの方
（ただし、町内会・自治会の会長などの参加が望ましい方が対象区域の外にお住まいの場合は、参加可とする）
・特にご参加いただきたい方（特に①の方）
　①自家用車での移動が困難又は困難となる可能性のある高齢の方（移動目的：通院、買物等）
　②通勤・通学のための交通手段が必要な方、子育て中の方など
　③地区の交通やまちづくりなどに関心がある方
※第３回ワークショップでは、必要に応じて実地調査（徒歩等）を行う可能性がある。

4. 参加者募集計画

4.1 募集方法

大きくは、以下の２つの方法で行う。
①広報紙、ホームページでの募集（広報は 9/1 号に記事を掲載予定）
②町内会・自治会への協力依頼
・回覧、掲示板への掲載など（町内会・自治会との調整による）
・その他（町内会・自治会の会長から地区内で呼ぶべき人にも声をかけてもらうなど）

4.2 応募受付方法

・資料準備のため、事前申し込み制とする。
・事前申し込みの受付は、企画政策課が対応する。
・会場や進行の都合上、応募が多数となった場合は、抽選とする。

4.3 参加者募集の PR 資料作成

・チラシを作成する。

5. ワークショップ実施計画

5.1 ワークショップの方法（基本的な考え方）

・区域内の交通に関わる現状、課題、ニーズ、区域の交通のあるべき姿、交通サービスの方向性、利用したい具体的な交通サービスまで、各回の「主なテーマ」に基づき全４回の検討を進める。

・ワークショップの回数は、各区域×４回（計 16 回予定）を想定する。

・各回の内容に合わせて、（狭義の）ワークショップ、ワールドカフェ等を組合せて実施する。

・中心となるファシリテータ１人（撮影、グループ検討の補助含む）のほか、１テーブルに参加者４～５人とする。また、各テーブルには、受注者１人がファシリテータとして参加予定である。

5.2 区域ごとのテーマ設定（仮）

※第１回のワークショップ結果を受けて調整・決定

・A. 深沢区域：地域住民と観光客が利用できる交通手段の確保
（観光利用にも対応した生活の足の確保）

・B. 引田・代継・網代区域：市街地における公共交通空白地域での交通手段の確保
（鉄道駅やバス通りへのアクセスの確保。広い区域内を効果的に結ぶ生活の足の確保）

・C. 草花折立下区域：高低差のある住宅地における生活の足の確保

・D. 東秋川橋西側区域：道幅が狭い密集住宅地における交通手段の確保
（道路が狭く車両への制約が多い区域における生活の足の確保）

5.3 ワークショップの詳細計画（案）

ワークショップの第１回から第４回までの流れを下表に示す。また、各回の詳細計画（案）を以下に示す。なお、これらはワークショップの状況により、適宜変更する。

表　ワークショップの第１回から第４回までの流れ

ワークショップ			アンケート
回	主なテーマ	ねらい	
1	区域の現状認識	区域の交通に関わる現状、課題等の意見聴取。	
2	区域の交通のあるべき姿	他自治体等の事例も参考にしながら、区域の交通のあるべき姿を検討する	
3	区域の交通サービスの方向性	現状認識や交通のあるべき姿を踏まえ、区域内の状況確認（実地調査等）を通じて、交通サービスの方向性を検討する	↓
			実施（第３回ワークショップまでの内容を織り込む）
4	区域の具体的な交通サービス	第３回までの検討及びアンケート結果を踏まえ、具体的な交通サービスを検討する	↵

表　第１回ワークショップの計画（案）

	次第	時間の目安	目的	備考
第1回	1. 挨拶、ワークショップの目的説明	5分	発注者から挨拶とともにワークショップの目的を説明	
	2. アイスブレイク	10分	参加者の緊張をほぐし和ませる	
	3. ワークショップの方法等の説明	5分	ワークショップの方法等を説明	
	4. ワークショップ（テーマ１）	20分	区域の現状を協議する	問「あなたは、この区域の良さ、ほかの町に住んでいる人に自慢できる魅力はどんなところだと思いますか？」
	5. ワークショップ（テーマ２）	20分	将来イメージを協議する	問「あなたは、４～５年後、この区域がどんな区域になって欲しいですか？」
	6. ワークショップ（テーマ３）	20分	課題を協議する	問「あなたは、この区域での移動について、将来のイメージと現在の状況を比較して、どのような課題があると思いますか？」
	7. まとめ	20分	模造紙に書かれたメモをもとに、各テーブルごとに結果を報告	
	8. アンケート実施	10分	次回の改善のため、ワークショップの方法等に関する意見を聴取する	
		110分		

※ワールドカフェ形式（＋グループインタビュー形式）

・各テーブルには、受注者１人がファシリテータとして参加し、適宜追加の質問をして意見を聴取する。

・１テーブル４～５人。テーマ２ではファシリテータを除き移動して別のテーブルに行き、テーマ３で元のテーブルに戻る（ファシリテータは不慣れな参加者を支援し、議論を進める役割も担う）。

表　第２回ワークショップの計画（案）

	次第	時間の目安	目的	備考
第2回	1. 挨拶	5分	発注者から挨拶	
	2. アイスブレイク	10分	参加者の緊張をほぐし和ませる	
	3. 区域の課題の振り返り	15分	第1回の結果を事務局がまとめた資料をもとに、前回の振り返り	
	4. ワークショップ（テーマ１）	20分	交通のあるべき姿を協議する（その１）	問「あなたが住み続けたい、住んでみたいと思うような区域になるためには、この区域にどのような交通があったらよいと思いますか？」
	5. 交通手段の事例	20分	他自治体等の交通のあるべき姿、交通手段等の事例紹介	
	6. ワークショップ（テーマ２）	20分	交通のあるべき姿を協議する（その２）	問「（事例紹介を踏まえて続き）あなたが住み続けたい、住んでみたいと思うような区域になるためには、この区域にどのような交通があったらよいと思いますか？」
	7. まとめ	20分	模造紙に書かれたメモをもとに、各テーブルごとに結果を報告	
	8. アンケート実施	10分	次回の改善のため、ワークショップの方法等に関する意見を聴取する	
		120分		

※ワールドカフェ形式

・１テーブル４～５人。テーマ２ではファシリテータ１人を除き移動して別のテーブルに行く。

（ファシリテータは、以前の話し合いの内容を伝え、視点の多様化を手助けする。）

表　第３回ワークショップの計画（案）

	次第	時間の目安	目的	備考
第3回	1. 挨拶	5分	発注者から挨拶	
	2. 区域の交通のあるべき姿の振り返り	15分	前回の振り返りと事務局素案を提示	①第2回の結果を事務局がまとめた資料をもとに、前回の振り返り ②第2回に各テーブルで出た意見をさまざまな意見を踏まえて事務局として素案を提示
	3. 区域内の状況確認の説明	10分	区域内の状況確認の目的、確認箇所、注意点等説明	
	4. 区域内の状況確認	40分	上記の事務局素案をもとに、特に問題がある箇所や確認が必要な箇所等を、参加者が一緒に確認する	図面等を用いて、区域全体ではなく、特に確認すべき箇所を見る ※　必要に応じて実地調査を行う
	5. ワークショップ	20分	交通サービスの検討	問（実地調査を踏まえ）「あなたは、この区域にどのような交通サービスがあったらよいと思いますか？」
	6. まとめ	20分	模造紙に書かれたメモをもとに、各テーブルごとに結果を報告	
	7. アンケート実施	10分	次回の改善のため、ワークショップの方法等に関する意見を聴取する	
		120分		

※テーブルを固定したワークショップ形式

・基本的に２回目と同様だが、途中でテーブルを移動しない。

表　第４回ワークショップの計画（案）

	次第	時間の目安	目的	備考
第4回	1. 挨拶	5分	発注者から挨拶	
	2. アイスブレイク	10分	参加者の緊張をほぐし和ませる	
	3. 地区の交通サービスの振り返り	20分	前回の振り返り、アンケート結果の報告と事務局案を提示	①第3回の結果を事務局がまとめた資料をもとに、前回の振り返り ②第3回に各テーブルで出たさまざまな意見を踏まえて事務局として案を提示 （4区域で比較検討できるように、カルテ形式等で整理）
	4. ワークショップ（テーマ１）	30分	具体的な交通サービスの検討	問「案を踏まえ、あなたは、この地区にどのような交通サービスがあったらよいと思いますか？」 （案への修正、追加意見など）
	5. ワークショップ（テーマ２）	15分	役割分担についての検討	問「サービスの実現に向けて、あなたができること、市や交通事業者に担って欲しいことはどのようなことでしょうか？」
	5. まとめ	20分	事務局からまとめの報告、今後の進め方を説明	
	6. アンケート実施	10分	今後の取組、ワークショップの方法等等に関する意見聴取	
		110分		

※会場全体によるワークショップ形式

・テーブルごとに議論するのではなく、会場全体で意見を出しあう。

（ワールドカフェ形式は、アイデアを出す場としては適するが、意見をまとめる方法としては不適なため）

6. アンケート調査実施計画

6.1 実施時期

・第３回ワークショップと第４回ワークショップの間、平成 30 年 12 月頃を想定する。

6.2 実施方法

・目的：区域内の交通に関わる現状、課題、ニーズ等について、区域内の考え方の傾向等を把握する。
・調査対象：公共交通優先検討区域に居住する世帯
※調査対象件数等は、各区域の人口・世帯数に応じて、事務局にて調整する（アンケート結果を統計的に整理するため、必要な件数を確保するよう努める）。
・配布・回収方法：郵送配布、郵送回収（深沢区域のみ直接配布、郵送回収）

6.3 調査内容（案）

■アンケート調査内容（案）

目的	調査項目	調査内容
回答者の属性を把握する	回答者属性	・世帯構成、各人の年齢、性別、職業等、自家用車の保有・利用状況、高齢者運転免許証の返納状況、自転車の利用状況等
移動の目的別に、移動の現状を把握する	移動の現状（目的別の目的地、交通手段、頻度）	１）移動の目的 ①買物（日用品、買回品別に）、②通勤・通学、③通院、④その他 ２）目的別に聞く内容（移動がある場合のみ回答） ・目的地（駅名または地区名などの選択肢を提示） ・交通手段（自家用車（自分が運転）、自家用車（家族が運転）、自家用車（知人が運転）、鉄道、バス、タクシー、自転車、徒歩、社会福祉協議会（社協ケアセンター）の移送サービス、デイサービスの送迎、その他施設の送迎バス、その他） ・移動の頻度（平日ほぼ毎日、週に 2～3 回、週に 1 回程度、月に数回程度、年に数回程度）
交通で困っていることを把握する	移動の問題点（バスに限定しない）	（選択肢案） ・駅やバス停まで遠くて不便　・バスの運行本数が少ない ・利用したい時間にバスの便が無い　・道路が狭くて危険 ・目的地付近に駐車場や駐輪場が無く不便　等
交通に関わる課題、要望等を把握する	移動のニーズ	１）目的地のニーズ（行きたい場所／行きたいけど不便な場所（その理由含む）） ２）交通手段のニーズ（どのような交通手段があると望ましいか） ３）サービスのニーズ（交通手段ではなく、必要なサービスを整備することで対応可能なもの）
利用意向を把握する	利用意向	**・もし、ワークショップで検討した交通サービスを導入した場合、利用するか確認する。**
上記以外の意見を把握する	自由意見	・自由記述

※ワークショップの状況により、設問内容は調整を行う。

7. 市民とのコミュニケーション計画

7.1 目的

○（対象区域）取組の共有化・強化

ワークショップを行うに当たり、ワークショップの取組について対象区域にお住まいの方に広く情報提供等を行い、ワークショップに参加している方へ結果報告を行うとともに、参加していない方にも取組について情報の共有を図る。

○（市全体）公共交通に関する市の取組のＰＲ、理解促進

対象区域以外の市民の方へ、この取組について情報提供を行うことで、公共交通に関する取組について理解と連携のきっかけづくりを行う。

7.2 情報提供の基本的な考え方

・ワークショップの開催予告と開催結果の報告を対象区域の住民に行う。
・各区域で検討していることについて、区域内で完結させるのではなく、必要に応じてホームページに掲載する。
・全４回のワークショップの結果、その後の取組の進捗は、必要に応じてホームページ等でも情報を提供する。

7.3 情報収集の基本的な考え方

・対象区域にお住まいの方に、アンケート調査を実施する
（第３回ワークショップ終了後を想定する。その時点で検討状況を 7.2 のとおり区域に提供する。）

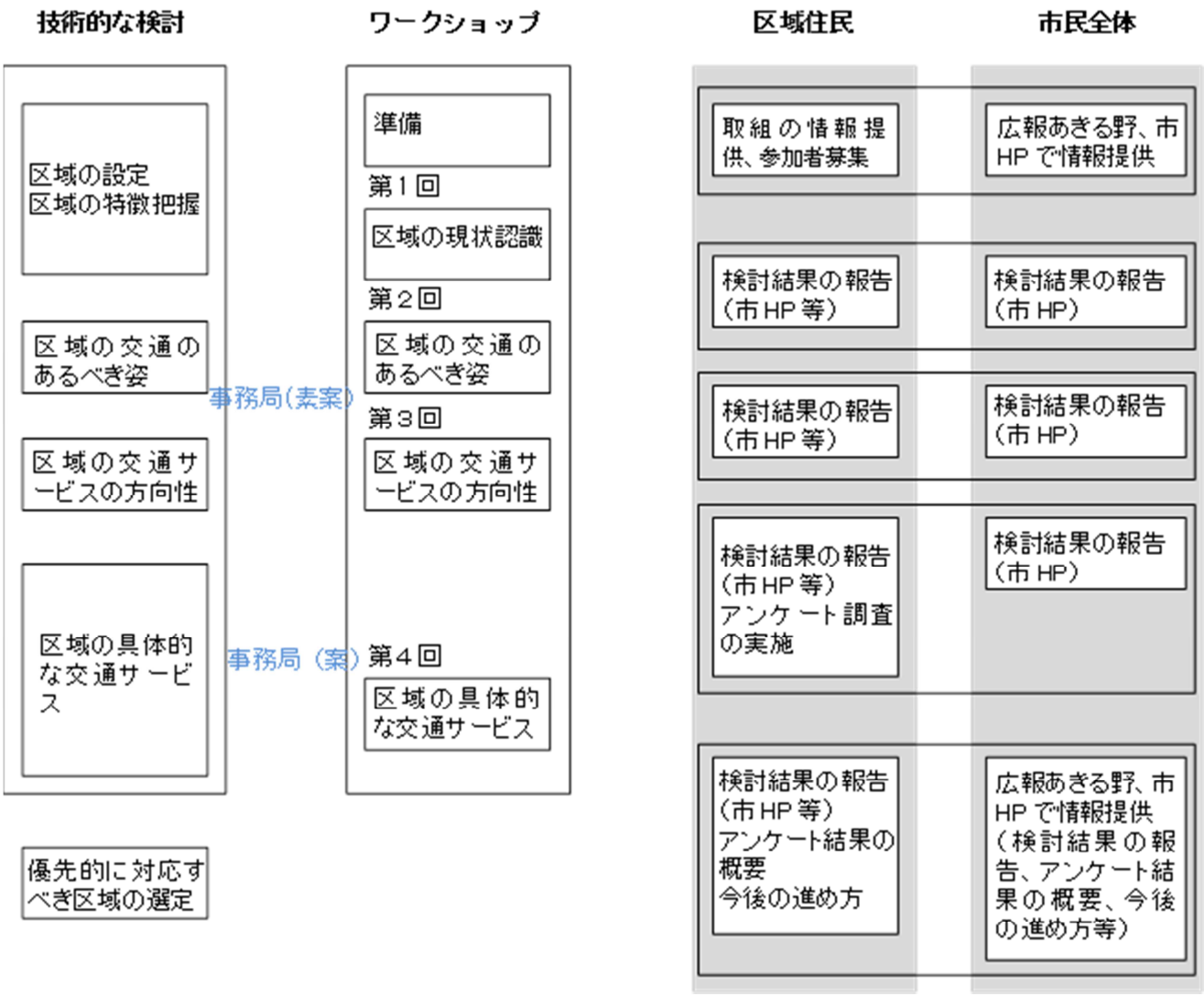
7.4 具体的な方法（案）

○対象区域住民

・取組の情報提供、ワークショップの参加者募集
・各ワークショップの検討結果の報告（ホームページ掲載）・・・ワークショップ後（毎回）
・アンケート調査の実施
・アンケート結果、ワークショップでの取りまとめ結果（最終）、今後の進め方等の周知

○市民全体

・取組の進捗状況を必要に応じてホームページで情報提供
・各ワークショップの検討結果の報告（ホームページ掲載）・・・ワークショップ後（毎回）
・アンケート結果、ワークショップでの取りまとめ結果（最終）、今後の進め方等の周知



※あきる野市公共交通検討委員会は全体を確認

図　市民とのコミュニケーションの流れ（イメージ）